

彙
能
譜
九
百
類

桂
海
潮
堂
輯

六



海防九百類 秋之類

横海潮堂編

七月

七月 平家等の書

西月

七月 平家等の書

大江

七月 平家等の書

赤彦

文月

文月 平家等の書

梅室

文月 平家等の書

由誓

文月 平家等の書

松竹

文月 平家等の書

雪里

文月 平家等の書

名人

秋

春吐しの約束つゝ三月
 又月戸川又おろしのよの吐
 又月の面影又申る流き
 又月戸待ちあつて春の嬉
 又月戸一軒くよ明を
 人よ又秋よおろしう
 秋五戸桶よおろし
 秋五戸葉合をちりり
 秋五戸吸かすかすの中
 秋五戸のこゝろ筆を
 秋五戸葉ハ持のの
 秋五戸おろし風よ
 昔古
 峯瓜
 万壺
 通志
 古伝
 風洞
 兄和
 眉眉
 水水
 杜流
 甘秋
 里鳩

五秋

今秋
 秋五戸隣をくく葉の
 のいさぬ柱よ高り
 葉先よの戸よき
 針垣よ人給葉や
 乙香の代をめり
 つまくと笠の香
 本戸州よおろし
 風の吹をりよ
 手まりいおろし
 考よ又る遊を
 飯時の行
 初秋の香
 上毛
 つつ
 峯丸
 冷吹
 昇左
 梅通
 左言
 本簪
 左角
 一森
 の大
 要松

今秋

初秋

秋

未秋

初秋の夕まは山の夕ぐれ
初秋の夕まは山の夕ぐれ
白く染まると秋の暮より
秋の暮より出来てゆく
つばき梅の葉を居る
秋の暮より出来てゆく
秋の暮より出来てゆく
秋の暮より出来てゆく

月夜
子夜
唯夜
梅夜
水車
真國
梅屋
大英
志徳

浦秋

残暑

時めくや山に
秋の暮より出来てゆく
秋の暮より出来てゆく
秋の暮より出来てゆく
秋の暮より出来てゆく

下井
真國
梅屋
大英
志徳

初秋

初嵐

初洗

秋

三月の夕まは山の夕ぐれ
三月の夕まは山の夕ぐれ
三月の夕まは山の夕ぐれ
三月の夕まは山の夕ぐれ
三月の夕まは山の夕ぐれ
三月の夕まは山の夕ぐれ
三月の夕まは山の夕ぐれ
三月の夕まは山の夕ぐれ
三月の夕まは山の夕ぐれ
三月の夕まは山の夕ぐれ

下毛
一山
大英
真國
梅屋
大英
志徳

七夕

洗ひたる硯をさしけりしきり
七夕のあそびをさしけりしきり
七夕のあそびをさしけりしきり
七夕のあそびをさしけりしきり

出羽

里索

深くくも星をたつたけりし
星のたつたけりしきり
星のたつたけりしきり
星のたつたけりしきり

星逢

いとほききききききききき
いとほききききききききき
いとほききききききききき
いとほききききききききき

水若 養乳 高女 池山 古聚 水 丹翼 牛鹿 森友 逆村 棲草 虎英

星金骨

星金骨のあそびをさしけりし
星金骨のあそびをさしけりし
星金骨のあそびをさしけりし
星金骨のあそびをさしけりし

星衣

星衣のあそびをさしけりし
星衣のあそびをさしけりし
星衣のあそびをさしけりし
星衣のあそびをさしけりし

採葉

秋

牛鹿 森友 逆村 棲草 虎英 水若 養乳 高女 池山 古聚 水 丹翼 牛鹿 森友 逆村 棲草 虎英

権の葉子本意なきは国の歌に
 権の葉子洗くははらひよのぬき
 三々三々思ふの雪もなき
 三々三々梅し先
 星も赤いれなきもなき歌に
 かけ系也はの子まじし歌に
 掛きぬ梅もなきも系も歌に
 かけもつとまつと一もはる由袖に
 後ろ程もなきもはるが小袖
 子まじりもなきも系も也貸小袖
 たりりもなきも系も也貸小袖
 三々三々おれなきもはる貸小袖

依法
 依法
 依法
 依法
 依法
 依法
 依法

水梨 深泉 基高 岩山 梅家 末是 路風 健山 玉志 岩月 高日 山公

貸小袖

三々三々月にはるはるの川
 海原也梅つとるはるの川
 三々三々向ふもはるはるの川
 大系も出てるはるはるの川
 梅も向ふも通るはるはるの川
 秋も秋ももなきはるはるの川
 聖々の秋も系もはるはるの川
 以梅も系もはるはるの川
 月入るとはるはるの川
 小村もはるはるの川
 親持もはるはるの川
 三々三々人の子もはるはるの川

依法
 依法
 依法
 依法
 依法
 依法
 依法
 依法
 依法
 依法
 依法

松竹 梅笠 露長 道長 大仁 赤山 岩山 梅家 一打

三々三

孟月

秋

五

無事

無事を言ふは人の心を安んずるに似たり

無事

草市

草市は田舎の村にありて、草を賣るに似たり

草市

草市

草市は田舎の村にありて、草を賣るに似たり

草市

草市

草市は田舎の村にありて、草を賣るに似たり

草市

草市

草市は田舎の村にありて、草を賣るに似たり

草市

草市

草市は田舎の村にありて、草を賣るに似たり

草市

草市

草市は田舎の村にありて、草を賣るに似たり

草市

草市

草市は田舎の村にありて、草を賣るに似たり

草市

松徑
 寄る松あり居てはくもつて
 思ふ松ありてはくもつて
 松径の松ありてはくもつて
 松径の松ありてはくもつて
 松径の松ありてはくもつて
 松径の松ありてはくもつて
 松径の松ありてはくもつて
 松径の松ありてはくもつて
 松径の松ありてはくもつて
 松径の松ありてはくもつて
 松径の松ありてはくもつて
 松径の松ありてはくもつて

川柳
 指月
 寄月
 而后
 月塵
 終年
 初冬
 松夕
 雄嶺
 掃葉
 望麦

加籠
 照うつりの一と雲よりそき
 よき籠よりある家の付一かた
 折くは風子うらゆる加籠
 つ並子斗りしつゝ無かりし
 手細しの毎年かたる加籠
 長左のこそそめく思きりあう
 手向さるる子新すは加籠
 寄出りし心よりたつやう
 言籠籠籠の松をそめく
 更なる松ありてはくもつて
 松のより清ぬる表はくもつて

秋

結村
 一具
 石雪
 布水
 言ほ
 乙居
 厩
 在
 西
 折
 掃
 松

刺結

きし結子のみきかきる小書

紫人

身流

かき結や細くいふねね

梅家

街突入

つと入兵人数あり無身小書

遠園

往本流

流のきり流は往本子整りたり

浮梅

送空

送り空のつねを白の陣下

一具

送り空のつねを白の陣下

年月

大文字

大文字にーを形や大文字

伊母

大乙

縁俄鬼

縁の事と并に往たり

一具

橋待

橋待をえそつり

一具

橋待子事をきかつ

一具

秋

一

踊

若くはつとまてふふりひのむらさき
白雲の向とあるまてふふりひ
雲をぬきかき入りてくるまてふふりひ
疾りまひつひ月たつ踊りうら
ねの根をよけし梅はさる踊りうら
近よりて又まつひ船のむらさき
坂口の雲よとてまてふふりひ
よとまてふふりひのむらさき
里えよふめつひのむらさき
けまてふふりひのむらさき
川城の立派まてふふりひ
君代子あつてまてふふりひ

福山
此風
素手
文太
素龍
杜馨
素龍
小揚
大調
京代
林室

足火

角力

徳屋系

二百十

婿しちや精進甲角力
是とらふてふふりひ
去りてくるまてふふりひ
繋とらふてふふりひ
風ふつとふりひ
所始はるるまてふふりひ
子代はるるまてふふりひ
子ひさき二百十
せうとらふ二百十
所てふふりひ
角力二百十
てふふりひ

京代
松竹
世山
貝峰
素手
素手
一具
岳麓
板加
素手
素手

秋

乙

新書

白の入りぬめりきき二面下白丸
いさあまをんちるひ若の流雲が
稻妻のりの方戸さきの庭をゆく
いまあまや眠るにわらうさる山入申
稻妻やいほはききつる木の幸
稻妻や戸庭のいそをさる庭の池
雲いそをさるや 稻妻の夫をさる
稲妻の糸ちりー ぐり 留りも
ふとさるふ志をさる清い秋の風
秋風戸庭をさるあまをさる
秋風子申さるさる松のさるー
深き戸行よまをさるあま秋の風

下毛
多如姑
組々
と秋宮
ま紅
一江
池船
柳舟
井舟
梅望
柳塘
如川
如桂

新風

新

也子居了ちりさるさる秋の風
秋風のさるや本は実を結ふ
秋の風習の上りふきさるさる
光り合ふさる戸束ぬさるいす
是子さるさるさるさるさるさる
明際戸さるさるさるさるさる
りのさるさるさるさるさるさる
管弦さるさるさるさるさるさる
さるさるさるさるさるさるさる
秋夕をさるさるさるさるさる
さるさるさるさるさるさるさる
秋の夕のさるさるさるさるさる

尾張 笠川
文友
真梨
和妻
友後
柳池
梅葉
梅葉
梅葉
文友
一詞

新秋

秋

草霧

冷き風の白より霧のーとまき乃霧

草外

又々霧れしるる乃の霞や州の霧

風石

おと月るとまき霧小まき霧

宮内

こぼるるまき霧も霧あり州乃つゆ

夏霧

霧ありまき霧ありまき霧の霧

接木

まき霧のまき霧をわくつゆりほり

水任

まき霧や下州の霧入の霧をわくつ

子霧

まき霧や月をまき霧の州の霧

函侯

まき霧やまき霧の霧の月の新

古まき霧

まき霧やまき霧の霧の霧の霧

のれを

まき霧の霧を引霧の貝の霧

二雲

朝霧

白霧

上

上

上

上

上

上

夕霧

露玉

霧

朝霧

夕つ中戸よりまき霧のまき霧

守ま

前山々州まき霧の夕の霧

羽輕女

まき霧のまき霧のまき霧の玉

嵐外

まき霧や仙をまき霧のつゆ乃玉

確炭

山まき霧のまき霧のつゆ乃玉

溪高

霧のまき霧のまき霧の玉

岳風

霧のまき霧のまき霧の玉

斗六

霧のまき霧のまき霧の玉

梅六

霧のまき霧のまき霧の玉

梅六

霧のまき霧のまき霧の玉

梅六

秋

上

詞一葉

新霧やぬれささるるの海
新霧子さゆめあり糸子
さうくと一首うけて相立
新氣や昔のさやか子相一葉
いつの昔のれぬるちや相一葉
相一葉落てふさるる小序
昔のさやか子落る一葉
以風もささるるさうりや柳
折枝いふ子のささるるや
新年のよるのささるる柳
柳ちるるささるるさうり

去房

雀橋
梅苗
奈那
塞
水
折加
陸山
初之
望
古

折敷

朝顔

女房

新奥や新新 昔の昔よさ
河のふれさ舞に河のぬきか
新氣や柳して屋の座の
新奥や新の座よさるる
素直よ新よ新風情や女房
ゆきむのささるるのささるる
つるさよ半のささるる女房
思ふさのささるるささるる
恒州をよけて候々女房
新のささるるのささるる女房
女房をささるるのささるる

上毛

徳
松竹
山
柳
元
桂
大
下
夫
佳
一

茶

七州の産をてかすや男

桔

山丘ありてを桔

申別うもや

風あき桔

産

産麦秋の文

木

産麦八葉の

美族の物

何しよの

鳳樓 生丘 西丁 菊山 初外 小松 確炭 京那 有芥 桐一 未成 山合

出羽

産

子未子あり

産

葉や心

芭

ふのー

のの

ささ

産

穂

秋

三

粒 暁 文 二 昇 里 可 琴 里 白 唯

秋
 秋の風は山を越え
 秋の雲は山を覆
 秋の空は山を映
 秋の光は山を照
 秋の影は山を長
 秋の聲は山を響
 秋の色は山を染
 秋の香は山を薫
 秋の味は山を甘
 秋の触は山を温
 秋の思は山を慕
 秋の情は山を恋
 秋の夢は山を遊
 秋の魂は山を舞
 秋の魄は山を驚
 秋の魄は山を嚇
 秋の魄は山を嚇

秋
 秋の風は山を越え
 秋の雲は山を覆
 秋の空は山を映
 秋の光は山を照
 秋の影は山を長
 秋の聲は山を響
 秋の色は山を染
 秋の香は山を薫
 秋の味は山を甘
 秋の触は山を温
 秋の思は山を慕
 秋の情は山を恋
 秋の夢は山を遊
 秋の魂は山を舞
 秋の魄は山を驚
 秋の魄は山を嚇
 秋の魄は山を嚇

秋

竹葉のそよよと吹く風を
 舟子のまはる風を
 舟子のまはる風を
 舟子のまはる風を
 舟子のまはる風を
 舟子のまはる風を
 舟子のまはる風を
 舟子のまはる風を
 舟子のまはる風を
 舟子のまはる風を

十一

舟子のまはる風を
 舟子のまはる風を
 舟子のまはる風を
 舟子のまはる風を
 舟子のまはる風を
 舟子のまはる風を
 舟子のまはる風を
 舟子のまはる風を
 舟子のまはる風を
 舟子のまはる風を

秋

十五

四爪

秋夕のこころ通しや梅のむ
ち入の子のふとさる梅のむ
まけられた小き里まき西爪
高きも草子ものぬ西爪
重きも草子ものぬ西爪
蜀黍や葉に押さるる草子
鬼灯やちと赤くわハ市のり
鬼灯や梅かかふる草子
侍つるや垣根の秋のむ
夜やちと草子の丹の梅
あふふの草子かかふる草子

田舎
梅
木
玉
小
松
松
葉
志
木
桂
斗

菊

鬼灯

唐草

草

花

秋夕のこころ通しや梅のむ
ち入の子のふとさる梅のむ
まけられた小き里まき西爪
高きも草子ものぬ西爪
重きも草子ものぬ西爪
蜀黍や葉に押さるる草子
鬼灯やちと赤くわハ市のり
鬼灯や梅かかふる草子
侍つるや垣根の秋のむ
夜やちと草子の丹の梅
あふふの草子かかふる草子

田舎
梅
木
玉
小
松
松
葉
志
木
桂
斗

秋

秋

秋七村

望をこえ申すを遊の八つう南
七種子秋のさへ梅戸の句も書
七種の子秋のさへ梅戸の句も書
七種の子秋のさへ梅戸の句も書
七種の子秋のさへ梅戸の句も書
七種の子秋のさへ梅戸の句も書

梅津
柳道
雀橋
湯草
古式言
丹頂
種花
重渡
一秋
梅津
野聚
吹子

唯陣

陣中をふまぬさうや子も右
表に下れたるおの心しやきり
小管の風まふあれたきりくは
あつとさう軒の東やきりくは
水邊の風やまふさうさきりくは
陣中をふまぬさうや子も右
陣中をふまぬさうや子も右
陣中をふまぬさうや子も右
陣中をふまぬさうや子も右
陣中をふまぬさうや子も右

田
為山
文彦
水月
一秋
玩甫
素屋
柳道
菖蒲
二葉
西溪

陣

寤生

秋

陣中をふまぬさうや子も右
陣中をふまぬさうや子も右
陣中をふまぬさうや子も右
陣中をふまぬさうや子も右
陣中をふまぬさうや子も右

十六

白麩
 乃
 稀
 出
 文
 柳
 乙
 振
 一
 具
 東
 右
 玉
 英
 左
 部
 白
 麩
 乃
 稀
 出
 文
 柳
 乙
 振
 一
 具
 東
 右
 玉
 英
 左
 部

伊
 努
 流
 芳
 笠
 村
 完
 和
 書
 莊
 一
 場
 梅
 宗
 津
 梅
 牛
 鹿
 田
 島
 玉
 葉
 左
 部
 里
 崎

秋

周

竹のけの抗をきかすはんあや
 えあうのまを居るまや岸の抗
 わきしやわる居るまあはまをき
 わきしやわる居るまあはまをき
 わきしやわる居るまあはまをき
 けし子子耕ひあまを秋の塚
 打と棄子あうまを秋の塚
 秋の塚しきわきし子帰 子りり
 秋の塚しきわきし子帰 子りり
 帰さし信るまあはまをき
 程しきあうまを秋の塚
 字子子あまを秋の塚

昇月
 柳海
 古武
 西三
 有長
 成序
 厨籍
 衣信
 寸量
 一の
 本營
 就甫

秋塚

秋塚

秋塚

このまを居るまあはまをき

秋の陸終る新をきかすは
 新のしあはまのうらまや 秋の陸
 秋の時をきかすはまをき
 秋の塚しきわきし子帰 子りり
 歸さし信るまあはまをき
 程しきあうまを秋の塚
 字子子あまを秋の塚

縁代
 之峰
 一の
 子美
 呂史
 光園
 地水
 尚回
 和美
 徳正
 子補
 東の

秋塚

秋塚

秋塚

秋

七

春山別

晴吹平野一川面乃自催
晴吹の足さくしと春の本のるが
春山の江戸にま唐の別は
ゆきさるる春のあまの山乃
はよりや山をみ世に春の
新うけし春のあまの山乃

一唐 暮春 守德 大早

春山子

人より春のあまの山乃
大春の夕秋のきく
春のあまの山乃のあまの山乃
春のあまの山乃のあまの山乃
春のあまの山乃のあまの山乃

大早 守德 大早

春子

春のあまの山乃のあまの山乃
春のあまの山乃のあまの山乃
春のあまの山乃のあまの山乃
春のあまの山乃のあまの山乃
春のあまの山乃のあまの山乃

春石 志徳 果如 往徳

初まの春のあまの山乃
初まの春のあまの山乃

春石

引振

引振のあまの山乃のあまの山乃
引振のあまの山乃のあまの山乃
引振のあまの山乃のあまの山乃
引振のあまの山乃のあまの山乃
引振のあまの山乃のあまの山乃

折徳 蓮宇 藤岳

八月

八月のあまの山乃のあまの山乃
八月のあまの山乃のあまの山乃
八月のあまの山乃のあまの山乃
八月のあまの山乃のあまの山乃
八月のあまの山乃のあまの山乃

梅竺 蓮如

八月

八月のあまの山乃のあまの山乃
八月のあまの山乃のあまの山乃
八月のあまの山乃のあまの山乃
八月のあまの山乃のあまの山乃
八月のあまの山乃のあまの山乃

五月

二期

二期のあまの山乃のあまの山乃
二期のあまの山乃のあまの山乃
二期のあまの山乃のあまの山乃
二期のあまの山乃のあまの山乃
二期のあまの山乃のあまの山乃

長莊 号宗 紫月

二期のあまの山乃のあまの山乃
二期のあまの山乃のあまの山乃
二期のあまの山乃のあまの山乃
二期のあまの山乃のあまの山乃
二期のあまの山乃のあまの山乃

秋

八朔や重の舞きも秋のうら
 八朔や僅と楽鳴や、のりり
 八朔やと多うを以ハ舞一
 八朔や重の舞のふかろき田
 八朔一まのえ申の田圃の物
 八朔えぬを秋を重の月
 八朔子風のつてかろ月
 八朔初月や重のうら新
 八朔戸口より重のうら初
 八朔素合の舞見と初
 八朔秋のうら重のうら
 八朔云の月や重のうら

未剛
 一秋
 得風
 院南
 万合
 象雄
 南
 指重
 伯崎
 美映
 美雄
 西月

八朔や重の舞きも秋のうら
 八朔や僅と楽鳴や、のりり
 八朔やと多うを以ハ舞一
 八朔や重の舞のふかろき田
 八朔一まのえ申の田圃の物
 八朔えぬを秋を重の月
 八朔子風のつてかろ月
 八朔初月や重のうら新
 八朔戸口より重のうら初
 八朔素合の舞見と初
 八朔秋のうら重のうら
 八朔云の月や重のうら

待宵
 待宵のうら重のうら
 待宵のうら重のうら
 待宵のうら重のうら
 待宵のうら重のうら
 待宵のうら重のうら
 待宵のうら重のうら
 待宵のうら重のうら
 待宵のうら重のうら
 待宵のうら重のうら
 待宵のうら重のうら

伴見
 美重
 氷重
 至土
 双鹿
 老圃
 鳳朗
 古去良
 初升
 初之表
 上毛
 向峰

秋

十一

名月

待宵や山又空あそ子海り下毛 子孝
 名月平昔しそ落る竹の露 号室
 名月平昔しそ落る竹の露 雪岳
 名月ののりてそしそ竹の葉 種好
 名月平昔の志をそしそを伝ふらん 老圃
 名月平昔の志をそしそを伝ふらん 如蒙
 名月平昔の志をそしそを伝ふらん 葛南
 名月平昔の志をそしそを伝ふらん 昇月
 名月平昔の志をそしそを伝ふらん 五橋
 名月平昔の志をそしそを伝ふらん 確炭
 名月平昔の志をそしそを伝ふらん 田舎
 名月平昔の志をそしそを伝ふらん 一具

今月

日今宵

秋ささる平海を伝ふよりの月 反彦
 乗之の秋のささるやりの月 本る
 名月平昔の志をそしそを伝ふらん 出富
 名月平昔の志をそしそを伝ふらん 美紫
 名月平昔の志をそしそを伝ふらん 倭物
 名月平昔の志をそしそを伝ふらん 長糸
 名月平昔の志をそしそを伝ふらん 嶽峯
 名月平昔の志をそしそを伝ふらん 柳亭
 名月平昔の志をそしそを伝ふらん 今所
 名月平昔の志をそしそを伝ふらん 雀岫
 名月平昔の志をそしそを伝ふらん 典川
 名月平昔の志をそしそを伝ふらん 嵐弁

秋

手を細くひきとる月の上毛

行人のわらわし似たり月

子食きおの重なる月の句

宙りのやめか月りる尾句トモ

降宙の中子籠りたり月

名月の宙まわくこころ

辛酉月

辛酉の皮むを毛子月

乙月鉦

鉦の肉重くはなせり月

鉦鳴る乙月の月尾句

丙月

下りてけの蟹籠の中を月

陸燦

嵐秋

古流

五月

一月

五月

井沼

雪

異

物語

雄吟

古書

海のぼる舟けー海の月おろる

月照や磯深きうり波の若

事さうくー月の出夕ナリ

川原のさけり月の波子さ

るえさるか港を伸る月おろ

舟あふる若のささる月おろ

るゆさる若をささる月の若

いささるや住りささる歩歩り

る尾子来る人のささる月の若

えぬ月のいささる若や舟り白

箔引のいささる月や備のう

いささる月のささる月おろ

舟山

抱儀

舟若

現砂

港甲

西原

助耕

春洲

梅笠

異古

深白

一陽

秋

秋

十三

初月	いさよふや新まね時き浦の月 いさよふや重の氣引時きく 人き時をいさよふ一初月 時き人のおろふ月、後月、後月、 時き人のいさよふ月、後月、 二初月	一葉 老圃 唯茲 林雲 一豊 伯文 林雲 出空 出空 山亦 主也
----	---	--

星月報	時き時をいさよふ一初月の月 時き時をいさよふ一初月の月 時き時をいさよふ一初月の月 時き時をいさよふ一初月の月 時き時をいさよふ一初月の月 時き時をいさよふ一初月の月 時き時をいさよふ一初月の月 時き時をいさよふ一初月の月 時き時をいさよふ一初月の月 時き時をいさよふ一初月の月 時き時をいさよふ一初月の月 時き時をいさよふ一初月の月 時き時をいさよふ一初月の月 時き時をいさよふ一初月の月 時き時をいさよふ一初月の月	一葉 夕我 牛霞 洛川 占陸 白約 白約 佛品 佛品 由野 由野 廣徳
-----	---	--

子のちり雲を散きし小舟の
 何れを南に空を飛行し遊ばす
 散りて春風の海はもたぐりたり
 約東や橋下目録其るまこと入
 約東や行よる流り市中
 親の名をゆりてハ様々約東に
 約東一あまし一水のまらるる
 約東一かひを忘るる舟渡りし
 約東やよ手よきりし人老ひ
 約東や舟のまのまを舞居る
 約東やつりてまよる舞茶知
 約東や蛙の居まらるの一柳陰

先彦
 文之
 茶和
 空有
 系雅
 溪岳
 唯炭
 勢之素
 一之
 向差
 舞一
 斗六

約東や細くとも五船くさり
 約東子人歌うつる流れ下り
 約東や造化のまき山り坊
 本の前より移住ちまこの約東は
 二の屋よりまらるる舞一き約東は
 虫の音も初うまうり約東は
 て〜〜〜〜の舞の約東は
 古今を思ふ舞舞の約東は
 約東一時々をまらるの約東は
 約東をまらるの約東は
 約東とまらるる舞舞のまらるる
 約東をまらるるのまらるる

柳里
 舞園
 文友
 雀雙
 茂推
 久美
 舞調
 桂尚
 岳井
 舞舞
 舞舞
 言尔

秋

十五

身入

燈台

秋空

秋雪

冷力を先立世のそよまき

身入より子と身入の縁森うを

下り無き春のそれと燈台の光

明滅する月のそよまき燈台の光

秋の空を春の消り燈台の光

秋の空を春の消り燈台の光

秋の空を春の消り燈台の光

秋の空を春の消り燈台の光

秋の空を春の消り燈台の光

秋の空を春の消り燈台の光

秋の空を春の消り燈台の光

秋の空を春の消り燈台の光

春差

万香

藤花

子来

一洞

玉葉

守善

陀岳

兔角

一行

古武

古武

秋山

秋夕

秋の空を春の消り燈台の光

秋の空を春の消り燈台の光

秋の空を春の消り燈台の光

秋の空を春の消り燈台の光

秋の空を春の消り燈台の光

秋の空を春の消り燈台の光

秋の空を春の消り燈台の光

秋の空を春の消り燈台の光

秋の空を春の消り燈台の光

秋の空を春の消り燈台の光

秋の空を春の消り燈台の光

秋の空を春の消り燈台の光

石葉

抱儀

雄嶽

古武

子来

羊羹

由之

舍用

里茶

柳加

云夕

秋

秋

河けりて並に雄や秋の暮

京作

秋

難波江の松之樹一秋の暮

兼玉

秋

秋の暮葉落ぬて流連す

白詩

秋

秋の夕のとき子されて暮るる

白詩

秋

江の暮ハ江は度りたり秋の暮

菅富

秋

秋の暮亦子暮き一秋の暮

菅富

秋

秋の暮やあ手が暮るぬ秋の暮

惟叶

秋

秋の暮やあ手が暮るぬ秋の暮

田島

秋

秋の暮やあ手が暮るぬ秋の暮

末只

秋

秋の暮やあ手が暮るぬ秋の暮

雪原

秋

秋の暮やあ手が暮るぬ秋の暮

文友

秋

秋の暮やあ手が暮るぬ秋の暮

恋活

秋

秋の暮やあ手が暮るぬ秋の暮

恋活

秋

秋の暮やあ手が暮るぬ秋の暮

恋活

秋

秋の暮やあ手が暮るぬ秋の暮

恋活

秋

秋の暮やあ手が暮るぬ秋の暮

恋活

秋

秋の暮やあ手が暮るぬ秋の暮

恋活

秋

秋の暮やあ手が暮るぬ秋の暮

恋活

秋

秋の暮やあ手が暮るぬ秋の暮

恋活

秋

秋の暮やあ手が暮るぬ秋の暮

恋活

秋

秋の暮やあ手が暮るぬ秋の暮

恋活

秋

廿七

秋考
高星
所波考

川子出て落口つとや落し
夕葉や雪の流生て落し
我落はるるも去るは時秋
いろくの月あり友の落し
空の深き子も去り秋の秋
えのうつるも去るは秋の秋
さしゆや雪の中式の秋の秋
秋の秋の秋の上もゆえり
忘れ人の忘れぬ高平より
高平の秋の秋の秋の秋
思ふ事あるも高平の秋の秋
落し秋の秋の秋の秋

廣学
文庫
大江
生布
所給
深学
清舟
高平
此風
寄舟
春風

陀堂の
砧
小波砧

昔提樹の古増秋の冬
陀堂の秋の秋の秋の秋
高平の秋の秋の秋の秋
もーをり出る月より
りる月より高平の秋の秋
月さき二つとつとつとつ
高平の秋の秋の秋の秋
里のりつとつとつとつとつ
ゆ人の秋の秋の秋の秋
月さきつとつとつとつとつ
高平の秋の秋の秋の秋
りつとつとつとつとつとつ

西遊
高平
為中
里表
万雪
杜流
狂友
葉山
高水
高田
高平

秋

秋

存

都一二百うねきや、中夜きぬく
 折に何を以て隣もあらうと、中夜破 伊勢
 有き子あまきよきまききや
 以て立て牛も森ききぬき
 何る所り風の吹けきききや
 約筆をきしけけと出る尾や
 控まけき子風も中夜の尾や
 小口く風も吹けきききや
 吹きぬ尾も接まけき尾や
 押まけけ番ききききき
 鴨川の上のまきけき尾
 仮初子出まき中夜やきき

重原
 真色
 京那
 松隣
 元路
 榴葉
 新川
 姪好
 千齋
 金丸
 有若
 梅全

不存

嬉存

よしの風のきききき中やきき
 尾もききき江に流ききき
 吹きぬ尾も接まけき尾
 かのきききききききき
 押まきききききききき
 何る所りきききききき
 重のりきききききき
 以て何る風筋も中夜の尾
 尾も吹ききききききき
 流りやきききききき
 大系や尾もきききき
 ききききききききき

嵐月
 星布
 若丸
 一の轉
 秋葉羅
 如葉
 吾雅
 一朔
 若水
 田高
 南枝

尾

若

玉英

夢松

氷佳

長莊

梅伴

珠堂

之教雅

音高

德

志徳

河公

氷堂

うきさきの人さしきーさきりむ

人住るとんさる煙るやけーゆむ

巻風の中よもまー志きよふ

音かぬ敷ひや若の志きよふ

書の中よけつるよまきよふ

え後一よ中葉のきけるよまきよふ

書州や書しゆれむさぬ垣の料

書多子終くさききおのり

むてゆる懸け種を懸ーなり

懸け中りすのふかゝるもゆ

書さきよまもええの懸けむ

書入の小きも寄りけの懸けむ

紫苑

書州

雜記

筆勢

文三

志佳

難茲

江三

志三

里孝

素雲

作海

秋雅

之於雅

奈大

意流

座多子留ささかみや筆勢

さきささかみささかみや筆勢

書多子終きささかみや筆勢

さきささかみささかみや筆勢

さきささかみささかみや筆勢

さきささかみささかみや筆勢

さきささかみささかみや筆勢

さきささかみささかみや筆勢

さきささかみささかみや筆勢

さきささかみささかみや筆勢

聖業

書多

秋雅

系所

稿

力なき風のみこころを系所
 笑ひれどのを種より並 稿 九
戒正
 ちよと人目よこまやうの稿
 似ておのまゝんごのや種 稿
 新書に末の字をきく想とくまや
 新くはるおの風流るとままや
 種うけて新書のおまるとままや
 新くはるおの風流るとままや
 実うけまのさうは山や新書 稿
戒正
 新書に末の字をきく想とくまや
 新くはるおの風流るとままや
 種うけて新書のおまるとままや
 新くはるおの風流るとままや

新稿

新稿

稿

さくはるの入り響く稿の處
 稿つけりさの通るや 稿 林
 夕やけや出てるる度と稿の出来
 稿のまやまきまうままうま
 りの香やよの香とつてははは
 稿にまうて休くる稿稿のま
 稿のまのまき稿稿のま入るま
 稿のまのまき稿稿のま入るま
 稿干と稿をま稿稿のま入るま
 稿干と稿をま稿稿のま入るま
 稿干と稿をま稿稿のま入るま
 稿干と稿をま稿稿のま入るま

稿

秋

武春

相一
 由之
 小之
 孫助
 桂素
 職長
 桂素
 玉泉
 号名
 新稿
 一稿

新稿

田

親子を植て親子の田新
新法了産遠出は田田うを

確炭 風 子行

掛

手まをーを見さる月夜平
そ指平垣あかろい掛乃家

梅 素人

為

そ指の夢を白く入平家
神垣く人の指とあ為指

涼 一葉

指

指の志終持こーー為指
指和月をのさく家上川

情 露宇

今年

春神一神海も梅了こーー
白のそ家不さよこーー

雲 孤舟

新

新末平梅子向屋八月のさ
新末平雀乃規と白の中

梅 系 雄

新

新末平雀乃規と白の中
新末平雀乃規と白の中

系 雄

新

新末平雀乃規と白の中
新末平雀乃規と白の中

系 雄

秋

初房

初房平山よとわる勢もあき
 土の房平かさね庵の影もあき
 初房平突こゆる方の西にけり
 出たて八月は新阿久夫侍房
 房平平晴るけハ重き平よの夜
 平重平重きより重き房の年
 房平平入おるそは海にけり
 重平よ人あれく〜〜〜
 重平と房の影もあき
 房平平あく〜〜〜
 下りきりて柳田とゆる平色房
 重のまぬ〜〜〜

多与
 上
 只川
 一貝
 梅茶
 友後
 尚田
 皎月
 併孫
 里江
 初二
 種好

後房

後房平山よとわる勢もあき
 土の房平かさね庵の影もあき
 初房平突こゆる方の西にけり
 出たて八月は新阿久夫侍房
 房平平晴るけハ重き平よの夜
 平重平重きより重き房の年
 房平平入おるそは海にけり
 重平よ人あれく〜〜〜
 重平と房の影もあき
 房平平あく〜〜〜
 下りきりて柳田とゆる平色房
 重のまぬ〜〜〜

和春
 中春
 重五
 其雪
 美人
 文友
 月邦
 菅古
 如蒙
 雪里
 白彦
 中子

晴

百舌啼中木の影くはるの
良物一州本の中や橋の影
きくはる白の晴る中百舌の影
橋脚の中本の中はるの影
二度と来ぬ中よるの影
海時の影中よるの影
朝つるの影中よるの影
新なるの影中よるの影
山影中の影中よるの影
海よるの影中よるの影
晴実の影中よるの影
新なるの影中よるの影

の考
美若
尚
老圃
牛山
之影
樵歌
二案
橋脚
余依
空頂
大經

晴

晴

本師考

晴峰と雲風実子入西の
善中一の影中よるの影
晴る中一の影中よるの影
本師考一の影中よるの影
富一の影中よるの影
本師考一の影中よるの影
心を出して一の影中よるの影
晴一の影中よるの影
一の影中よるの影
一の影中よるの影
一の影中よるの影

後平
在羽
順子
管居
各志
唐山
寸長
好齋
遠足
可川
本莊
字公

本師考

秋

三

綱目

河

粘

粘

崩築

地は... 綱目

漢方の粘りきき... 綱目

... 綱目

... 綱目

... 綱目

... 綱目

... 綱目

... 綱目

... 綱目

... 綱目

... 綱目

... 綱目

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

九月

九月

九月

九月

... 九月

... 九月

... 九月

... 九月

... 九月

... 九月

... 九月

... 九月

... 九月

... 九月

... 九月

... 九月

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

秋

...

九の葉

わのりて弁南きく之里の葉
白きくしを改てくらの葉

唯家
守

葉のあひ葉は舞やの宮せり

斗

子日しき想葉よあひら九の葉

歌

葉くくしき葉は茶う丸

古

葉のあひ葉は清き路あり

如

葉は秋雲の光悟や葉のし

兄

葉は秋雲のあひら九の葉

痛

葉のあひ葉は清き路あり

其

葉のあひ葉は清き路あり

新

葉のあひ葉は清き路あり

破

葉のあひ葉は清き路あり

陳

菊

白葉

葉のあひ葉は清き路あり

月

葉のあひ葉は清き路あり

梅

葉のあひ葉は清き路あり

種

葉のあひ葉は清き路あり

士

葉のあひ葉は清き路あり

林

葉のあひ葉は清き路あり

暁

葉のあひ葉は清き路あり

界

葉のあひ葉は清き路あり

墨

葉のあひ葉は清き路あり

春

葉のあひ葉は清き路あり

呼

葉のあひ葉は清き路あり

梅

葉

残菊

秋

三

抄る美のきみふよは望み葉のわ
 ちりふ多きそつれりあそび十の華
 君
 後月
 いん侍有る清きまふ平后の月
 ありそこの葉の口きく魚后の月
 山崎の生あつきる平后の月
 水香の余程ふえり後月の月
 隈の多き清きそりあり後月の月
 照り合の多き重きそり後月の月
 美きそりそり名抄教き後月抄下
 聖なるねのわらふそり後月の月
 子守ふりねの月抄下
 後月
 南守てふそり後月の月抄下

長生 幽谷 養比 梅室 穂野 美草 経事 立友 風洞 大江 香道 抄水

十二の歌
 南は松子そりて月の名抄下
 余はそりそりそりそり十二の歌
 さえりそりそりそりそり十二の歌
 のりねの歌をそりそり十二の歌
 余のりねの連をそりそり市
 買てそりそりそりそり上毛
 新酒
 そりそりそりそり新酒下
 つ純子しそりそりそり新酒下
 伯連の歌教ふそり新酒下
 上サ
 松風のそりそりそり新酒下
 春のそりそりそり新酒下
 伝をそりそりそり新酒下

枝生 今依 穂野 美草 小和 唯海 悠平 宗和 筑山 以聚 文友 岩中

秋時雨

まらば木葉の世は雨くもれ
未刻色を帯びて揺る雨時自
書ふの葉よふと雨も時自
有る雨の世も揺る板の雨
実も揺る雨向時や雨時自
明る雨の揺るよおとや秋の雨
車あ州の葉は中も揺る秋の雨
名のつゆ州を揺るに河きの雨
虫も揺る雨も揺る秋の雨
秋の葉も揺る揺るの雨くもれ
くもれ雨の中も揺るよおとや
未刻の中も揺るよおとや

末松

清思
以見
招富
津猿
尚白
使
在
我
我
梅
人
梅
旭

破葉蓮

末松や香の峰本子の雨の妙る
芭蕉葉や香の峰本子の雨の妙る
人海對法や風の破葉蓮を
破葉く風情色くもれ
香葉葉の破葉くもれ
夕葉の妙るよおとや香の峰
香の葉夕雨に揺るよおとや
香の葉葉の香の峰本子の雨
夕葉を揺るよおとや香の葉
くもれよおとや雨の峰本子の雨
くもれよおとや雨の峰本子の雨
くもれよおとや雨の峰本子の雨

香紅葉

紅葉

田
梅
京
香
庄
山
里
文
梅
田
三
三
三
三
三

秋

三

四五尺の山に紅葉の中へはるる 佐保
 元雨のふえたるの庵の紅葉も
 何の木もたけしぬる日の紅葉も
 出流うらぶ雲白の空より紅葉も
 さあぐの香楓ろくやも紅葉も
 五尺の情や傑して花のこも
 手もくも葉もそくも紅葉も
 疎もも手もそくも紅葉も
 本の内も紅葉もそくも紅葉も
 をもそくもそくも紅葉も
 風節もそくも紅葉も
 川岸もそくも紅葉も

佐保 宿中 完井 清風 碓氷 古武 杜松 相馬 碓氷 空頂

かた紅葉 山保や思ひもかけぬさー紅葉
 の影も葉の巻も花のそくも紅葉
 のそくも紅葉もそくも紅葉も
 やるももそくも紅葉の中へ
 産もそくも紅葉の中へ
 紅葉の中へ紅葉の中へ
 紅葉の中へ紅葉の中へ
 紅葉の中へ紅葉の中へ
 紅葉の中へ紅葉の中へ
 紅葉の中へ紅葉の中へ
 紅葉の中へ紅葉の中へ

山保 宿中 完井 清風 碓氷 古武 杜松 相馬 碓氷 空頂

秋

三三

同実

ワラウぬね子 梨 一陽
相の實やふ破子よと似て高のきき
相のこや一りぬとさむのいしうる

梅 睡

葉の落を中く梅 梅 睡
ふらう実を結ひる 梅 睡 信
雪に存位入りの影やうぬ睡

柳

流すももを託去や産の柳
去ふももを託去や産の柳
流すももを託去や産の柳
流すももを託去や産の柳
今流す葉の光るや西のうけ

栗

今流す葉の光るや西のうけ

推 空

葉の落やぬね子 梨 一陽
葉の落やぬね子 梨 一陽
葉の落やぬね子 梨 一陽
葉の落やぬね子 梨 一陽

本 実

葉の落やぬね子 梨 一陽
葉の落やぬね子 梨 一陽
葉の落やぬね子 梨 一陽
葉の落やぬね子 梨 一陽

九 年 母

葉の落やぬね子 梨 一陽
葉の落やぬね子 梨 一陽
葉の落やぬね子 梨 一陽
葉の落やぬね子 梨 一陽

通 州

葉の落やぬね子 梨 一陽
葉の落やぬね子 梨 一陽
葉の落やぬね子 梨 一陽
葉の落やぬね子 梨 一陽

秋

種 好 葉 山 左 我 樹 石 一 友 千 真 杜 流 添 寺 乙 居 左 言 梅 野 梅 空

一 陽 石 橋 志 徳 長 莊 嵐 光 月 邦 古 武 良 惟 州 葉 山 友 友 古 武 良 如 美

菊

笑む口より夕のさき一山通州より
 層の岨のうらぬふりしと菊のりり
 策のちや一ふと菊のさきと菊のり
 志もさきにおのふりしと菊のりり
 こつそとと友こ一らひと菊のり
 早ふしと菊のさきと菊のり
 松茸のさきと菊のさきと菊のり
 ととととと降る菊のさきと菊のり
 石をさきと菊のさきと菊のり
 双方をさきと菊のさきと菊のり
 人をさきと菊のさきと菊のり
 菊のさきと菊のさきと菊のり

桂枝
 桂枝
 招富
 牛鑿
 培月
 柳加
 燕枝
 歌月
 文友
 孝月
 老圃

秋

秋の初山をさきと菊のり
 帰燕のさきと菊のさきと菊のり
 海州のさきと菊のさきと菊のり
 猫子の枕のさきと菊のり
 余の目よの菊のさきと菊のり
 お堀のさきと菊のさきと菊のり
 菊のさきと菊のさきと菊のり
 菊のさきと菊のさきと菊のり
 行秋のさきと菊のさきと菊のり
 行秋のさきと菊のさきと菊のり
 行秋のさきと菊のさきと菊のり
 行秋のさきと菊のさきと菊のり
 行秋のさきと菊のさきと菊のり
 行秋のさきと菊のさきと菊のり

川鑿
 白峰
 菜山
 甲鳩
 由盤
 松屋
 味希
 梅石
 大梅
 杉峯
 海布
 老圃

秋

り秋山乃 山麓の多し
り秋山乃 山麓の多し
り秋山乃 山麓の多し
り秋山乃 山麓の多し
り秋山乃 山麓の多し
り秋山乃 山麓の多し
り秋山乃 山麓の多し
り秋山乃 山麓の多し
り秋山乃 山麓の多し
り秋山乃 山麓の多し

暮秋

九月

混雑

詠秋九百題 冬之類

旗海湖堂編

十月をあらけ 山は細
十月や味も 秋は
十月や 秋の
十月や 秋の
十月の木の 秋
十月の木の 秋
十月の木の 秋
十月の木の 秋
十月の木の 秋
十月の木の 秋

冬

一

正一

神書

十月廿五日

信

通

十月廿五日

信

通

十月廿五日

信

通

十月廿五日

信

通

十月廿五日

信

通

十月廿五日

信

通

十月廿五日

信

通

十月廿五日

信

通

十月廿五日

信

通

十月廿五日

信

通

小春

小六月

十月廿五日

信

通

冬

初冬

十月廿五日

信

通

新送

十月廿五日

信

通

二

時雨會

留居戸を暮らさるるさま一ツ
去のし時雨を付さうくみか空
夕の夕子時雨無山も暮らう
時雨を呼ぶくする空の秋
時雨を呼ぶく美人の生か時雨
白の秋もさうさうさうさうの會
愛細やうさうさうさうさう
秋の秋の秋さうさうさう
雨傘深炭のぬけさうさう
抱て来た、お子さうさうさう
臺和の雜給のちやさうさう
庵丁の手際もさうさうさう

之考
き波
月秋
燈梅
山敷
双露
梅令
深布
庵子
杜松
立宇
梅月

時雨會

以五載

何れもさうさうさうさう
梅辺の梅つ居るやさうさう
以袋を破さうさうさう
梅の海梅折さうさう
表梅人の破のさうさう
以さうさうさうさう
家、のさうさうさう
宵のさうさうさう
里さうさうさう
とのさうさうさう
梅つさうさうさう
初時雨牽梅もさうさう

初月
梅榮
風網
古武良
風石
万雪
由松
松末
霞配
流雲
有露
き波

表梅

玄梅

初時雨

何れもさうさうさう
梅辺の梅つ居るやさう
以袋を破さう
梅の海梅折さう
表梅人の破のさう
以さう
家、のさう
宵のさう
里さう
とのさう
梅つさう
初時雨牽梅もさう

初月
梅榮
風網
古武良
風石
万雪
由松
松末
霞配
流雲
有露
き波

時雨

ねの葉子色とて深はや初時雨、
 今きくは音を吹きや初時雨 上毛 柳木
 孫人のとらうり子若平の初時雨 桑華女
 大粒も降るといふや 初時雨 源光
 袖の長平時雨 一はとの細り 一具
 肥まのなき無雪うも降志をれい 梅笠
 長緑手我のなきはけり時雨 霞谷
 乃の秋のまて時雨 廣徳うら 乙人
 志まのや初時雨のあつつき、 春通
 さ先くと時雨かゝ無雪の登 通志
 波濤の吹きあつて時雨うら 雨扇
 雪の白くは時雨のさけ時雨うら 魯云

海之れ

朝時雨

夕時雨

雪の林下り 春初り志まの雪見 菅村
 山の尾を引く 秋の時雨 赤木 雪春
 海の中を里の時雨をえたりうら 梅木
 見えも来りて 時雨うら 伊藤
 沖の帆を日城のせう 春の村之れ 沙路
 あまもあつとまをれて志まの村時雨 伊藤 沙路
 元えのち起あつて時雨うら 甘道
 肥まのなき時雨を吹きや 初時雨 赤木 精友
 つまもなき時雨を吹きや 初時雨 赤木 精友
 鏡のうらも先之よはけりや 夕時雨 赤木 精友
 雪の白くは時雨のさけ時雨うら 魯云

冬

五

小東
しんく

藤をけしけき葉を青あり小東時色

五

什扇

松の気かきうたのさきや小東時色

信法

風外

東の東へまふ所の味さ時色

信法

古一

本統よりたれくゆや小東時色

多景

朝水

東時色

時色事の秋入る里のくさき

信法

宵衣

東へいりてたれくゆや小東時色

多景

鏡丈

あきおをよたの影の時色

信法

龜淵

うらぬらう鐘の音きく時色

信法

幻外

鐘時色

時色やたふけくさき鐘の音

信法

松風

時色の鐘の音きく時色

信法

松韻

ききく鐘の音きく時色

信法

浮水

月時色

月をうよ思ひまきくも松の月

信法

ふと丸

日の能川言志まきく志き水虎

信法

馬勇

時色やうたふけくさき鐘の音

信法

四友

時色

時色やうたふけくさき鐘の音

信法

金鼓

時色の影をまきく時色

信法

弓勇

時色の影をまきく時色

信法

巴扇

時色の影をまきく時色

信法

横笛

時色の影をまきく時色

信法

琵琶

時色の影をまきく時色

信法

九条紋

初霜

初霜や眼の及ふたけ雪の初

信法

舟外

初霜や眼の及ふたけ雪の初

信法

舟外

初霜や眼の及ふたけ雪の初

信法

舟外

冬

六

けり雲

この雲や言の原の母れ神あり
けり雲の先たるけり雲ときききり
切雲よりけり雲ありけり雲あり
初雲をけり雲ありけり雲あり
けり雲ありけり雲ありけり雲あり
けり雲ありけり雲ありけり雲あり
けり雲ありけり雲ありけり雲あり
けり雲ありけり雲ありけり雲あり
けり雲ありけり雲ありけり雲あり

大梅
大鵬
大龍
大石
大交
大物
大子
大内
大自
大何
大積

雲

大雲や海を渡る雲ありけり
けり雲神傳ありけり雲あり
けり雲ありけり雲ありけり雲あり
けり雲ありけり雲ありけり雲あり
けり雲ありけり雲ありけり雲あり
けり雲ありけり雲ありけり雲あり
けり雲ありけり雲ありけり雲あり
けり雲ありけり雲ありけり雲あり
けり雲ありけり雲ありけり雲あり
けり雲ありけり雲ありけり雲あり

嵐高
松中
雲甲
雲玉
雲霞
雲守
雲秋
雲一
雲角
雲芳
雲竹

雲

雲

冬

冬

霜新

霜人をもよおすては露の露乃新
動と物もあつたふたつや露の露

石橋
存也

霜風

霜風もさうさうつらう難木山
初と暮と霜風つらう小春うら

千歳文

為山
苔江

單霜

霜と風のつら程多分字の霜
霜風もさうさうつらう難木山

上毛

天洲
西馬

霜の初もさうさう霜の初も
禁方へは陸奥へは霜の初も

一葉
菅高

霜もや暖かちのき月明り
霜の子も初霜さつたき霜の初

桂水
宮明

霜柱

霜柱もさうさう霜の初
霜の初もさうさう霜の初

巨之
辰山

霜雪

霜雪もさうさう霜の初
霜の初もさうさう霜の初

潮平
菅古

霜枯

霜枯もさうさう霜の初
霜の初もさうさう霜の初

霜古
霜折

初氷

初氷もさうさう霜の初
霜の初もさうさう霜の初

霜折

冬

厚氷

氷の厚さを示す。厚氷は、冬の深まりを示す。

高川

氷の厚さを示す。厚氷は、冬の深まりを示す。

上

氷の厚さを示す。厚氷は、冬の深まりを示す。

上

風氷

風が吹くことで氷が溶ける様子を示す。

上

風が吹くことで氷が溶ける様子を示す。

上

風が吹くことで氷が溶ける様子を示す。

上

風が吹くことで氷が溶ける様子を示す。

上

風が吹くことで氷が溶ける様子を示す。

上

風が吹くことで氷が溶ける様子を示す。

上

氷

氷の一般的な様子を示す。

高川

氷の一般的な様子を示す。

高川

氷の一般的な様子を示す。

高川

氷の一般的な様子を示す。

高川

氷の一般的な様子を示す。

高川

積氷

氷が積もる様子を示す。

高川

氷が積もる様子を示す。

高川

氷が積もる様子を示す。

高川

氷が積もる様子を示す。

高川

氷が積もる様子を示す。

高川

氷が積もる様子を示す。

高川

氷が積もる様子を示す。

高川

雪

雪の一般的な様子を示す。

高川

冬

乙

風

及と月ひらきよ名の身寄るる
雪の三層ほさく命をき本のる
川音の春のしちのききる
妙月子能治る紙の寄る
きやくのの寄るをけの寄る
来る人子思春のくるさあ
もろくや春のくるさあ
ころくや入白を紙の寄る
風や春の寄る
本枯や大樹の下の寄る
風や春の寄る

上十

古 幽 凸 種 丹 梅 山 董 慈 山 一 冬

冬月

風や晴を産表軒表有
本枯や雪う樹子入る
雪の葉の本の物凍る
雪の方の物凍る
雪の葉の本の物凍る
雪の方の物凍る
雪の葉の本の物凍る
雪の方の物凍る
雪の葉の本の物凍る
雪の方の物凍る

冬日

冬

下廿

梅 村 山 種 好 折 加 一 山 種 好 董 寄 甘 翠 露 眼 漢 人 緑 池

冬 水

冬の川の影 遊まを 流るる 橋の

武蔵

つねに

冬の水 氷の先のつら鏡

末只

冬の水 氷の先のつら鏡

比古

冬の水 氷の先のつら鏡

折加

冬の水 氷の先のつら鏡

折加

冬の水 氷の先のつら鏡

折加

冬の水 氷の先のつら鏡

折加

冬の水 氷の先のつら鏡

折加

冬の水 氷の先のつら鏡

折加

冬の水 氷の先のつら鏡

折加

冬の水 氷の先のつら鏡

折加

山 眠

山の月 氷の先のつら鏡

折加

冬 山

冬の山 氷の先のつら鏡

折加

冬 田

冬の田 氷の先のつら鏡

折加

冬 海

冬の海 氷の先のつら鏡

折加

冬 川

冬の川 氷の先のつら鏡

折加

水 洞

水の洞 氷の先のつら鏡

折加

冬

冬

冬の田 氷の先のつら鏡

折加

冬の川 氷の先のつら鏡

折加

冬の海 氷の先のつら鏡

折加

冬の山 氷の先のつら鏡

折加

冬の水 氷の先のつら鏡

折加

冬の洞 氷の先のつら鏡

折加

冬の氷 氷の先のつら鏡

折加

冬の雪 氷の先のつら鏡

折加

冬の霧 氷の先のつら鏡

折加

冬の霜 氷の先のつら鏡

折加

冬の露 氷の先のつら鏡

折加

冬の雨 氷の先のつら鏡

折加

冬の雪 氷の先のつら鏡

折加

冬の霧 氷の先のつら鏡

折加

冬の霜 氷の先のつら鏡

折加

冬の露 氷の先のつら鏡

折加

冬の雨 氷の先のつら鏡

折加

冬の雪 氷の先のつら鏡

折加

冬の霧 氷の先のつら鏡

折加

冬景

冬の風が吹くや
雪が降るや
月が照るや
松竹が雪に覆はるや
梅の花が咲くや
水が凍るや
鳥が鳴くや
人々が冬装束を穿るや
酒を飲むや
火を焚くや

冬撰

冬景

冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首

冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首

冬景

冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首

冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首
冬景の一首

冬

上

巨燧

巨燧して燃炭を以て起るる

一具

善燧

善燧して燃炭を以て起るる

丁和

燧

燧して燃炭を以て起るる

杉木

燧

燧して燃炭を以て起るる

田高

火桶

火桶にして燃炭を以て起るる

千齋

火鉢

火鉢にして燃炭を以て起るる

如屏

冬

三

布園

美道ハ好ミテ其ノ事ハハカシク我ニ示シ
投中ニシテ吾等キキル事ハ人トシ
何ト事ナリヤウツテ知ノ事ハ人トシ
至ル程ニシテ思ハル事ハ人トシ
其ノ事ハ好ミテ其ノ事ハハカシク我ニ示シ
佛ノ種一粒キキル事ハ人トシ
佛ノ種一粒キキル事ハ人トシ
投中ニシテ吾等キキル事ハ人トシ
何ト事ナリヤウツテ知ノ事ハ人トシ
至ル程ニシテ思ハル事ハ人トシ
其ノ事ハ好ミテ其ノ事ハハカシク我ニ示シ
佛ノ種一粒キキル事ハ人トシ
佛ノ種一粒キキル事ハ人トシ

霞美

和善

真楽

梅子

桃仙

青藤

白峰

二華

春杯

田塾

香山

和湯

豆袋

豆袋ニシテ其ノ事ハハカシク我ニ示シ
投中ニシテ吾等キキル事ハ人トシ
何ト事ナリヤウツテ知ノ事ハ人トシ
至ル程ニシテ思ハル事ハ人トシ
其ノ事ハ好ミテ其ノ事ハハカシク我ニ示シ
佛ノ種一粒キキル事ハ人トシ
佛ノ種一粒キキル事ハ人トシ

崖

月の光ハ好ミテ其ノ事ハハカシク我ニ示シ
山ノ中ニシテ其ノ事ハハカシク我ニ示シ
投中ニシテ吾等キキル事ハ人トシ
何ト事ナリヤウツテ知ノ事ハ人トシ
至ル程ニシテ思ハル事ハ人トシ
其ノ事ハ好ミテ其ノ事ハハカシク我ニ示シ
佛ノ種一粒キキル事ハ人トシ
佛ノ種一粒キキル事ハ人トシ

山窟

山房

山房ニシテ其ノ事ハハカシク我ニ示シ
投中ニシテ吾等キキル事ハ人トシ
何ト事ナリヤウツテ知ノ事ハ人トシ
至ル程ニシテ思ハル事ハ人トシ
其ノ事ハ好ミテ其ノ事ハハカシク我ニ示シ
佛ノ種一粒キキル事ハ人トシ
佛ノ種一粒キキル事ハ人トシ

冬

徳
兄介
雪老
知月
一朗
月秋
月高
飯修
雪浦
熊野
鬼柳

藤

寒瘧

紅葉

落葉

保たりのまきぬやねあの印の香
 深の子よわくふくく金や松葉拾
 霜降りの子は雪もきき雲くろし
 常やけや此坊の児の折かき
 うららのまきさるまらるのまきや
 山ありそくくつやいづちの紅葉
 つるりの約瓶落しやいざお茶
 空をさるまきく伝ちるのまきや
 芳うらるる鹿の出口の落葉うら
 るまきをくくは落葉の流き
 又色もきく紅葉をのらうらる
 吹うけさるまきさるは落葉を

惟
 吟
 由
 雪
 和
 美
 山
 里
 孝
 布
 大
 兄
 和
 丹
 頂
 空
 信
 第
 明

落葉

木葉

落葉をくくまきさるまきく小里山
 山里や落葉の下の香もあ
 似る家のらんゆる山家やあつ落葉
 めくくく落葉の中の中家うら
 りのまきさるまきく人よ落葉のまき
 向る家おを淋しや落葉をくき
 掃葉をくまき深きまき落葉を
 焚く例し子の掃葉をまき落葉を
 山里の落葉をかきくまき掃葉
 宙風のめくくくまき掃葉
 掃葉をくまきける掃葉を木のまき
 寒く掃葉を元力なき木のまき

扇
 風
 柳
 如
 素
 亂
 掃
 月
 錦
 衣
 所
 柳
 如
 之
 雄
 千
 齋
 涼
 掃
 葉
 素
 柳
 壯
 信

冬

秋

澤水

中ノ産物ノ多ク其ノ味ノ佳ク
山菜也ヤ伊以ノ水ノ清ク
山菜也ノ名ノ多ク其ノ味ノ佳ク
山菜也ヤ伊以ノ水ノ清ク
山菜也ノ名ノ多ク其ノ味ノ佳ク
山菜也ヤ伊以ノ水ノ清ク
山菜也ノ名ノ多ク其ノ味ノ佳ク

梅仙 一葉 古山 松竹 梅 桑 梓 山 樵 石 岩 流

葉水

山菜水

川流ノ水ノ清ク其ノ味ノ佳ク
葉水也ヤ伊以ノ水ノ清ク
葉水也ノ名ノ多ク其ノ味ノ佳ク
葉水也ヤ伊以ノ水ノ清ク
葉水也ノ名ノ多ク其ノ味ノ佳ク
葉水也ヤ伊以ノ水ノ清ク
葉水也ノ名ノ多ク其ノ味ノ佳ク

梅仙 一葉 古山 松竹 梅 桑 梓 山 樵 石 岩 流

枇杷水

橙水

味ノ佳ク其ノ味ノ佳ク
枇杷水也ヤ伊以ノ水ノ清ク
枇杷水也ノ名ノ多ク其ノ味ノ佳ク
枇杷水也ヤ伊以ノ水ノ清ク
枇杷水也ノ名ノ多ク其ノ味ノ佳ク
枇杷水也ヤ伊以ノ水ノ清ク
枇杷水也ノ名ノ多ク其ノ味ノ佳ク

遠水 枇杷 橙 山 樵 石 岩 流

冬

水の仙 水の仙 水の仙 水の仙 水の仙 水の仙
 水の仙 水の仙 水の仙 水の仙 水の仙 水の仙
 水の仙 水の仙 水の仙 水の仙 水の仙 水の仙

水の仙

水の仙 水の仙 水の仙 水の仙 水の仙 水の仙
 水の仙 水の仙 水の仙 水の仙 水の仙 水の仙
 水の仙 水の仙 水の仙 水の仙 水の仙 水の仙

水の仙

冬

十八

于

枯菊

昔の〜枯菊もまた天来ト
世の〜菊は〜
後

枯萩

〜萩の〜
〜萩の〜
〜萩の〜

枯蕨

〜蕨の〜
〜蕨の〜
〜蕨の〜

枯芭蕉

〜芭蕉の〜
〜芭蕉の〜
〜芭蕉の〜

枯色蓮

〜色蓮の〜
〜色蓮の〜
〜色蓮の〜

買古

申居

耕高

老圃

長在

英則

添平

素明

長乐

一陽

墨迹

以兄

枯菊

〜菊の〜
〜菊の〜
〜菊の〜

枯萩

〜萩の〜
〜萩の〜
〜萩の〜

枯蕨

〜蕨の〜
〜蕨の〜
〜蕨の〜

枯芭蕉

〜芭蕉の〜
〜芭蕉の〜
〜芭蕉の〜

枯色蓮

〜色蓮の〜
〜色蓮の〜
〜色蓮の〜

拍儀

未足

高富

可味

墨迹

眩如

月底

可枯

忘水

葉亦

如叶

書在

冬

上

三

枯登 多々殿のこえんさうさき口の枯葉なり 古樽 貞止
ふき善のさる程其のかれ子有也 城后 若村
ましくと招き葉のゆりてまかす

冬州 善い葉のこえんさう 樽 冬州 武蔵 南村
枯葉の舟やましく 冬州の字 種好

枯野 かの舟やましく 舟の一字 里孝
廣野のりし枯つていさる小庵より 南竺

松平のかきまうてのりかれのり 伝信 一程
ふきまふさきまふさきののりかれのり 秋光

舟の脊よりの殿うるくれのうら 梅妻
まうりの大さきまうりや 枯葉系 若水

松つていさる小庵より 山歌

家おとつてのりまうてのりかれのり 千齋

聖の通る枯葉のこえんさう 海布

冬枯 冬枯や舟のさる程 冬枯の風 冬南

冬枯や舟のさる程の夕さきり 山歌

冬聖 冬聖のこえんさう 冬聖の 美翠

冬聖のこえんさう 冬聖の 桑島

冬聖のこえんさう 冬聖の 若水

冬聖のこえんさう 冬聖の 貞止

冬

廿一

志徳
 為徳の
 墨迹
 古書
 字土
 一介
 糖糸
 老圃
 田高
 梅室
 尺亦
 五溪

冬書三

麦苗

山知子梅上麦よりうろろれ下
 麦苗を望むるの如く風子集
 遠くはるはるの如くよふ大根引
 露粒も〜も〜も〜大根引
 松栢子梅風を舞を大根引
 ぬき〜下〜下〜大根引
 吹つたる沙を為や大根引
 引き〜一〜一〜大根引
 春〜一〜一〜大根引
 秋子梅の如く〜大根引
 秋風の如く〜大根引

大根引

冬書

風破
 柳加
 唯乾
 為山
 由之
 海布
 柳加
 一翠
 白我
 氷佳
 忘水
 梅必

冬

十一

約千菓
くもりての風子應る千菓へさ 武蔵

私存のこまなはれをまぬ約千菓

山古や藤の下もつり候しる

煮

ふきまのきまきまの似は煮白

煮油や苗本はまゝる屋きぬ

煮汁

煮汁はまゝるちりりや煮汁

煮子燗

煮子燗は親をつりてまろし

菅月

雲霞

稲葉

果葉

嵐和

由野

惟州

扉角

奴大

菅不

色則

左右

涼面

菅居

士明

白彦

大物

以兄

曉葉

紗吹

果葉

清堂

由野

飯

きく燗やりの何くくきく燗をま

きく燗や親をまゝるちりり

きく燗やれぬ煮や風乃春

子を持て親をぬきり飯のとも

飯汁はまゝるちりりや飯汁

飯汁はまゝるちりりや飯汁

飯汁は人の浮世は人乃り

飯汁は人の浮世は人乃り

坊

冬

生海草

坂あまの波子よきくはたけの月
かきあまの女はのれ子よきくはたけ
あつちよき世もあつちよき世もあつちよき
あつちよきあつちよきあつちよきあつちよき
あつちよきあつちよきあつちよきあつちよき
あつちよきあつちよきあつちよきあつちよき
あつちよきあつちよきあつちよきあつちよき
あつちよきあつちよきあつちよきあつちよき

岩 山
雪 山
由 山
浪 山
杜 山
岩 山
生 山
茅 山
江 山
空 山
山 山

水鳥

浮草

浮草

船カサの丘一為之也 浮草
さきと居る白の余おくしをの舟
あつちよきあつちよきあつちよきあつちよき
あつちよきあつちよきあつちよきあつちよき
あつちよきあつちよきあつちよきあつちよき
あつちよきあつちよきあつちよきあつちよき
あつちよきあつちよきあつちよきあつちよき
あつちよきあつちよきあつちよきあつちよき

一 山
一 山
一 山
一 山
一 山
一 山
一 山
一 山
一 山
一 山

鴨

冬

十四

千鳥	冬香	冬香	小鴨
山鳥の冬香子香居連る行り 出籠の冬香子香居連る行り	冬香の冬香子香居連る行り 冬香の冬香子香居連る行り	冬香の冬香子香居連る行り 冬香の冬香子香居連る行り	小鴨の冬香子香居連る行り 小鴨の冬香子香居連る行り
山鳥	冬香	冬香	小鴨
山鳥	冬香	冬香	小鴨
山鳥	冬香	冬香	小鴨

川子香	冬香
川の冬香子香居連る行り 川の冬香子香居連る行り	冬香の冬香子香居連る行り 冬香の冬香子香居連る行り
川子香	冬香
川子香	冬香
川子香	冬香

夕子香	並松子香ハ縁りて香あらし	湯中
小菖香	山吹子香ハ縁りて香あらし	如井
穢子香	田舎子香ハ縁りて香あらし	香芳
穢子香	小菖子香ハ縁りて香あらし	土佐
穢子香	以て之は風子香ハ縁りて香あらし	大經
穢子香	ふりて之は香あらし	一秋
穢子香	のつて之は香あらし	一白
穢子香	穢きうりて香あらし	一湯
穢子香	穢子訓は子香ハ縁りて香あらし	書江
穢子香	のつて之は香あらし	夫別
穢子香	ふりて之は香あらし	一香
穢子香	降ぬのりて香あらし	一香

浦子香	新きうりて香あらし	尚曰
浦子香	あはれて香あらし	折盡
浦子香	ゆつて之は香あらし	徳
浦子香	あはれて香あらし	墨化
浦子香	あはれて香あらし	巴休
浦子香	あはれて香あらし	一教
浦子香	あはれて香あらし	子公
浦子香	あはれて香あらし	空法
浦子香	あはれて香あらし	海布
浦子香	あはれて香あらし	橋
浦子香	あはれて香あらし	可憐
浦子香	あはれて香あらし	白峰

冬

言い本は若くは若くやとてささし
留當りては若くは若くやとてささし
とてささしとてささしとてささし
とてささしとてささしとてささし
とてささしとてささしとてささし
とてささしとてささしとてささし
とてささしとてささしとてささし
とてささしとてささしとてささし
とてささしとてささしとてささし

白彦
不入
性性
杜鸞
一山
清素
補紫
不入
岳松
千号
源星
信路

川を流す石礫けをそよよ牛筋の
獲るべきは石の海をそよよ牛筋の
画の工まつては石の海をそよよ牛筋の
人形は形教は石の海をそよよ牛筋の
とてささしとてささしとてささし
とてささしとてささしとてささし
とてささしとてささしとてささし
とてささしとてささしとてささし
とてささしとてささしとてささし
とてささしとてささしとてささし

墨趣
鳥曉
杜水
積流
和隣
聖菜
二第
和菜
可川
浦山
雅啄
梅室

冬
十二

霜月や燈山の火の光を照らす
 赤月や遠くはるかに
 空の月を玉の空を子に
 兼ては天の橋の香を空に
 為國の橋は空をのりて
 昇る月のけりて
 夢を漸く夕をけりて
 飛鳥の啼き子新き
 日の影を梅の影に
 暁うけりて
 日の影を梅の影に
 早稲養を
 白
 好
 惟
 巨
 梅
 海
 由
 一
 相
 由
 西

空の玉
 空の月を玉の空を子に
 兼ては天の橋の香を空に
 為國の橋は空をのりて
 昇る月のけりて
 夢を漸く夕をけりて
 飛鳥の啼き子新き
 日の影を梅の影に
 暁うけりて
 日の影を梅の影に
 早稲養を
 白
 好
 惟
 巨
 梅
 海
 由
 一
 相
 由
 西

冬

歳

子燈心

惟得中平筆筆りの夜挿除

句光
惟州

二月子出て主婦の羅衣子燈心

千号

春のぬくもりの子燈心

一陽

行燈をのこるつはるん子燈心

涼名

西市

人あけてる朝の朝子りり西の市

鳥雲

世のよも我いのるも言へる西の市

梨山

舟車

船の舟子毎りのるも言へる舟車

一帆

春の舟車毎りのるも言へる舟車

不智

春の舟車毎りのるも言へる舟車

素直

里村出

春の舟車毎りのるも言へる舟車

惟学

春の舟車毎りのるも言へる舟車

化鵬

河上燒

河上燒中人の靴をいひては

西了

河上燒

河上燒中人の靴をいひては

壯水

河上燒

河上燒中人の靴をいひては

高斗

河上燒

河上燒中人の靴をいひては

素交

河上燒

河上燒中人の靴をいひては

昇月

河上燒

河上燒中人の靴をいひては

色調

河上燒

河上燒中人の靴をいひては

古表良

河上燒

河上燒中人の靴をいひては

管不

河上燒

河上燒中人の靴をいひては

不空

河上燒

河上燒中人の靴をいひては

不空

冬

七九

暮雪

暮山のあまのふもろくおの雪
朝暈や候まつもろくの雪
あまの雪の降ゆるの雪
雪の雪の雪の雪の雪
雪の雪の雪の雪の雪
雪の雪の雪の雪の雪
雪の雪の雪の雪の雪
雪の雪の雪の雪の雪

源重
宗郎
き成
大隆
梅本
雪
錦秋
木隆
秀芳
横尾
墨通
和心

秋雪

秋の雪の雪の雪の雪
秋の雪の雪の雪の雪
秋の雪の雪の雪の雪
秋の雪の雪の雪の雪
秋の雪の雪の雪の雪
秋の雪の雪の雪の雪
秋の雪の雪の雪の雪
秋の雪の雪の雪の雪

源重
宗郎
き成
大隆
梅本
雪
錦秋
木隆
秀芳
横尾
墨通
和心

積雪

積雪の雪の雪の雪の雪
積雪の雪の雪の雪の雪
積雪の雪の雪の雪の雪
積雪の雪の雪の雪の雪
積雪の雪の雪の雪の雪
積雪の雪の雪の雪の雪
積雪の雪の雪の雪の雪
積雪の雪の雪の雪の雪

源重
宗郎
き成
大隆
梅本
雪
錦秋
木隆
秀芳
横尾
墨通
和心

深雪

深雪の雪の雪の雪の雪
深雪の雪の雪の雪の雪
深雪の雪の雪の雪の雪
深雪の雪の雪の雪の雪
深雪の雪の雪の雪の雪
深雪の雪の雪の雪の雪
深雪の雪の雪の雪の雪
深雪の雪の雪の雪の雪

源重
宗郎
き成
大隆
梅本
雪
錦秋
木隆
秀芳
横尾
墨通
和心

吹雪

吹雪の雪の雪の雪の雪
吹雪の雪の雪の雪の雪
吹雪の雪の雪の雪の雪
吹雪の雪の雪の雪の雪
吹雪の雪の雪の雪の雪
吹雪の雪の雪の雪の雪
吹雪の雪の雪の雪の雪
吹雪の雪の雪の雪の雪

源重
宗郎
き成
大隆
梅本
雪
錦秋
木隆
秀芳
横尾
墨通
和心

雪のり

雪のりの雪の雪の雪の雪
雪のりの雪の雪の雪の雪
雪のりの雪の雪の雪の雪
雪のりの雪の雪の雪の雪
雪のりの雪の雪の雪の雪
雪のりの雪の雪の雪の雪
雪のりの雪の雪の雪の雪
雪のりの雪の雪の雪の雪

源重
宗郎
き成
大隆
梅本
雪
錦秋
木隆
秀芳
横尾
墨通
和心

雪のり

雪のりの雪の雪の雪の雪
雪のりの雪の雪の雪の雪
雪のりの雪の雪の雪の雪
雪のりの雪の雪の雪の雪
雪のりの雪の雪の雪の雪
雪のりの雪の雪の雪の雪
雪のりの雪の雪の雪の雪
雪のりの雪の雪の雪の雪

源重
宗郎
き成
大隆
梅本
雪
錦秋
木隆
秀芳
横尾
墨通
和心

冬

三

氷柱

氷柱の如くそそりたけり程の氷柱
雪の如くそそりたけり程の氷柱
雪の如くそそりたけり程の氷柱
雪の如くそそりたけり程の氷柱
雪の如くそそりたけり程の氷柱
雪の如くそそりたけり程の氷柱
雪の如くそそりたけり程の氷柱
雪の如くそそりたけり程の氷柱
雪の如くそそりたけり程の氷柱
雪の如くそそりたけり程の氷柱

杜若 氷月 廣学 物呈 以兒 寸長 柳並 軍亦 生五

牙

星牙

月牙

星牙の如くそそりたけり程の氷柱
月牙の如くそそりたけり程の氷柱
星牙の如くそそりたけり程の氷柱
月牙の如くそそりたけり程の氷柱
星牙の如くそそりたけり程の氷柱
月牙の如くそそりたけり程の氷柱
星牙の如くそそりたけり程の氷柱
月牙の如くそそりたけり程の氷柱
星牙の如くそそりたけり程の氷柱
月牙の如くそそりたけり程の氷柱

柳並 軍亦 生五

暖鳥

暖鳥の如くそそりたけり程の氷柱
暖鳥の如くそそりたけり程の氷柱
暖鳥の如くそそりたけり程の氷柱
暖鳥の如くそそりたけり程の氷柱
暖鳥の如くそそりたけり程の氷柱
暖鳥の如くそそりたけり程の氷柱
暖鳥の如くそそりたけり程の氷柱
暖鳥の如くそそりたけり程の氷柱
暖鳥の如くそそりたけり程の氷柱
暖鳥の如くそそりたけり程の氷柱

星遊 昇月 西月 和妻 彼翠 少歌 音富 精新 為全 管江 為水

空音

空音の如くそそりたけり程の氷柱
空音の如くそそりたけり程の氷柱
空音の如くそそりたけり程の氷柱
空音の如くそそりたけり程の氷柱
空音の如くそそりたけり程の氷柱
空音の如くそそりたけり程の氷柱
空音の如くそそりたけり程の氷柱
空音の如くそそりたけり程の氷柱
空音の如くそそりたけり程の氷柱
空音の如くそそりたけり程の氷柱

為水

冬

三

人の思ふははちしほくをきききき
有明やきききききききききき

文友
知月

有明やきききききききききき
有明やきききききききききき

千子
貞富

有明やきききききききききき
有明やきききききききききき

由華
大勝

有明やきききききききききき
有明やきききききききききき

梅宮
知月

有明やきききききききききき
有明やきききききききききき

知月
向彦

有明やきききききききききき
有明やきききききききききき

知月
初月

種
種と釣船やいりりりりりりりり

逢流
以兄

種
種と釣船やいりりりりりりりり

不入
曲江

種
種と釣船やいりりりりりりりり

招富
銀幣

種
種と釣船やいりりりりりりりり

虎所
清月

種
種と釣船やいりりりりりりりり

上廿
月之

種
種と釣船やいりりりりりりりり

双古
在折

種
種と釣船やいりりりりりりりり

山
初推

冬
三

磨豆

有明子磨豆いそそそそ

生中

正相

相風平い磨豆一福子ふ

尚四

歳末きや磨豆元の左とより

管和

膏每や世るかまの納豆うの

台

よーとまき高なる高や粒納豆

高斗

和をふの食もゆとる納豆は

原事

暑る和の俵中あつ納豆

匠剛

練子うすつとかつや納豆汁

奈和

のさそと物うき練や納豆汁

尚四

そそゆとふと一程おは法ゆ

文庫

磨る後と磨るゆのよき持と磨る

管和

ゆ練を只とかりやとゆ

葉字

葛湯

葉字

人々いぬ山は和交やとゆ

或幅が和物とゆとそそ

葉字は和交も和交なり

ゆとゆとゆとゆとゆとゆと

不嫁の内い淋一きゆとゆ

かゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

和とゆとゆとゆとゆとゆと

暑る程ゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

布出

産新

甘蜜

雅遊

多よ

和素

州紫

士堂

香英

千齋

由整

可築

綿

綿ハやま結眼の足結敷の毛

冬

三

深ハ千尋の至麿の氷の若 天

一 貞富

佛名 仙名ハ世々からくう任人くくく
山出多敷揚りくう仙名舍

一 孝月

事始 皆よハ蘇りくく言ハり始
出りくをんかきんり始

可合 菩羊

空入 柔の丹ハ別れのやうきく空の入
車るのぬきけくくや空の入

木 梅津

空内 一ゆきくくく空の入くくく
きくくくくくく空の内

梅之 葉山

空雨 空の内ハ其悟程はくくく
空子懐けくく降きく空の内

空の空ハ其悟程はくくく
空子懐けくく降きく空の内

空の空ハ其悟程はくくく
空子懐けくく降きく空の内

空の空ハ其悟程はくくく
空子懐けくく降きく空の内

空の空ハ其悟程はくくく
空子懐けくく降きく空の内

冬

冬月

新野村新水つるふり冬月仙言
おとあそくおれたるきり冬月高仙
冬月や徳屋中は北と川向の
冬月や若のそねの戸田の東
月影の山をさあすともよの
昇る程空をさへてうらむ月
冬月やあそくきり冬月狐異
冬月やあそくきり冬月相違
下学の時をさへては冬月わのうり
ふあそくきり冬月冬月梅
暖うあそくきり冬月冬月梅
冬月梅のうらむさへて冬月梅

風光 立去 雅五 崇九 楊葉 知月 一溪 梅笠 函則 とうきん 梅村

冬梅

冬梅

冬梅のうらむさへて冬月梅
暖うあそくきり冬月梅
冬月梅のうらむさへて冬月梅
冬梅のうらむさへて冬月梅
冬梅のうらむさへて冬月梅
冬梅のうらむさへて冬月梅
冬梅のうらむさへて冬月梅
冬梅のうらむさへて冬月梅
冬梅のうらむさへて冬月梅
冬梅のうらむさへて冬月梅
冬梅のうらむさへて冬月梅

雅五 梅小 久美 沙路 立宇 百出 卯月 惟学 牛窓 苔石 冬居 一洞

冬梅

冬梅

藤

空梅やのりうとが無丘の如
空梅子尾と向るや新うり
空梅の時より影より死より
空梅の藤一きう子月より
藤梅の空よりや折の尾
空梅の時よりや一男
藤梅の程より色を叫ぶ
空梅の藤と維より古の節
藤梅のや中よりあつた
降空梅の梅よりや藤梅
空梅の空と藤より藤梅
空梅の空と藤より藤梅

葉

玉忘
白峰
光圃
二丘
報成
言尔
一秋
空行
士道
以風
和葉
折如

空

空梅の空と藤より藤梅
空梅の空と藤より藤梅
空梅の空と藤より藤梅
空梅の空と藤より藤梅
空梅の空と藤より藤梅
空梅の空と藤より藤梅
空梅の空と藤より藤梅
空梅の空と藤より藤梅
空梅の空と藤より藤梅
空梅の空と藤より藤梅

空

伝

文友
空不
由水
梅好
由雲
人々
忘水
如木
葉葉
梅葉
空山
空葉

保

保梅の空と藤より藤梅
保梅の空と藤より藤梅
保梅の空と藤より藤梅
保梅の空と藤より藤梅
保梅の空と藤より藤梅
保梅の空と藤より藤梅
保梅の空と藤より藤梅
保梅の空と藤より藤梅
保梅の空と藤より藤梅
保梅の空と藤より藤梅

冬

葉

保造	海内子こもるも焼く一年の餅 年重やののち結をぬ餅の香 のちや一ちねの餅すといはれり すこもききむをさるるあり餅造	五馬
餅石	餅石平同もさるるぬ牧らとる 餅石平同もさるるぬ牧らとる 餅石平同もさるるぬ牧らとる	牛乳
年市	押しのちやも居る中一年の市 のちやも居る中一年の市 のちやも居る中一年の市	素屋
年本	年別の外も買らるる一年の市 年別の外も買らるる一年の市 年別の外も買らるる一年の市	二丘
		岡富
		堀首
		梅不

手内	竹噺の本は掛あし一年の餅 竹噺の本は掛あし一年の餅 竹噺の本は掛あし一年の餅	赤岳
	美立やま程年のもり 美立やま程年のもり 美立やま程年のもり	古きら
	そのころもなれぬや年のもり そのころもなれぬや年のもり そのころもなれぬや年のもり	可
	美立やま程の納めぬ唐子 美立やま程の納めぬ唐子 美立やま程の納めぬ唐子	榮雅
	去年といふ程のちあし美のま 去年といふ程のちあし美のま 去年といふ程のちあし美のま	文耕
	美立やま程のちあし美のま 美立やま程のちあし美のま 美立やま程のちあし美のま	孔左
	美立やま程のちあし美のま 美立やま程のちあし美のま 美立やま程のちあし美のま	菅亭
	美立やま程のちあし美のま 美立やま程のちあし美のま 美立やま程のちあし美のま	當宗
	美立やま程のちあし美のま 美立やま程のちあし美のま 美立やま程のちあし美のま	涼月
	美立やま程のちあし美のま 美立やま程のちあし美のま 美立やま程のちあし美のま	知月
	美立やま程のちあし美のま 美立やま程のちあし美のま 美立やま程のちあし美のま	西馬

冬 三九

尾拂

浦町子妻家生けりて種き
 きは時子去年のを懐く懐く
 尾拂とては重なるをこそ
 心の尾子身をまきり身を尾拂
 子あつてつらつらと中尾拂
 大勢の人を似せし鬼ハ亦
 鬼ハ亦何あてて年と夕
 初子ハあつていさく鬼ハ亦
 奥屋ハあつてあき笑あつて
 豆打とてはあつてあつて
 豆打とてはし子あつてあつて
 生壁子打とてはあつてあつて

尾入
 不習
 由誓
 井悟
 文載
 貞富
 照樹
 白彦
 梅華
 匠閑
 梅尔
 白龍

年豆

美約

豆打や懐りのをさるる美
 豆打子薬肉の月生まうを
 君の代の美を懐く約果報
 美と約をさるる空の山家
 約はとて美と年と約れり
 美と物とあつて美の約はり
 心の美と美と美約の美と
 余の美と美と降出の美と
 美と一は美と信りの人通
 美と美と羽音と美と美と
 美と美と梅と美と美と
 美と美と美と美と美と

巳有
 尾年
 尾外
 文之
 手老
 一陽
 美交
 如美
 文路
 梅如
 水月
 管不

美近

美海

冬

四

美山子隣とありぬ一重山
 少其のの限りも元より美隣
 年月表ありありを任舞りり
 積上り新山年の用宮りり
 流るる年の小島や年月表
 表佛の胡弓子の年年月表
 立初る子と表合て年月表
 人志は年月を思われ子とあり
 表文のまゝとあり年月表
 心移るる世を理とあり年月表
 年月表思はれは流るる年月表
 船流ると丘とあり年月表

表 産
 流 半
 任 之
 一 高
 岩 外
 具 高
 宜 次
 和 表
 涼 石
 乙 居
 岩 年

来り美山一重あり年月表
 年月表平流る流れぬ人の
 年月表あり年月表の流るる
 年月表の表とあり年月表
 是程の表とあり年月表
 年月表の表とあり年月表
 年月表の表とあり年月表
 年月表の表とあり年月表
 年月表の表とあり年月表
 年月表の表とあり年月表
 年月表の表とあり年月表
 年月表の表とあり年月表

表 丘
 産 子
 高 山
 岩 年
 宜 次
 具 高
 一 高
 岩 外
 具 高
 宜 次
 和 表
 涼 石
 乙 居
 岩 年

冬

四一

大年 大年や儀のくし子並子嶋
 大年や船の往來のよ終るをぬ
 大年より目出度年の入のう丸
 年をいふやうのうのきき入は
 無定をいふやうの年の入のう丸
 掛乞 是乞も是ぬもいふやうの浮世
 乞も乞もいふやうの乞もいふやうの乞
 是乞も掛乞もいふやうの乞もいふやうの乞
 小嶋 小嶋の掛乞もいふやうの小嶋
 是乞も掛乞もいふやうの小嶋
 人々も掛乞もいふやうの小嶋

牛子 鵬居 涼不 万空 夢遊 荳唯 和羨 極紫 涼不 一紫 涼不

大嶋 大嶋の掛乞もいふやうの大嶋
 是乞も掛乞もいふやうの大嶋
 一のののと思われは 大嶋
 夢をいふやうの掛乞もいふやうの大嶋
 是乞も掛乞もいふやうの大嶋
 古曆 月二堂の掛乞もいふやうの古曆
 是乞も掛乞もいふやうの古曆
 又遠るの掛乞もいふやうの古曆
 是乞も掛乞もいふやうの古曆
 後子巻曆の掛乞もいふやうの古曆
 是乞も掛乞もいふやうの古曆
 借様をいふやうの掛乞もいふやうの古曆
 是乞も掛乞もいふやうの古曆

葉新 葉葉 勇賀 五好 里鳩 伯夷 飯帝 景羊 白彦 涼紫 燈井 曹史

冬

燈ハ麦の細葉をのりて書りて
 いろこりの色を月日の名をい
 人子舟を以て書りて無縁者の風
 鶴啼て俄に泣くや海老の字
 海老の字を以て書りて海老の字
 糸の糸を以て書りて海老の字
 糸の糸の糸を以て書りて海老の字
 糸の糸の糸を以て書りて海老の字
 糸の糸の糸を以て書りて海老の字
 糸の糸の糸を以て書りて海老の字

如月
 一朗
 梅宮
 西宮
 志水
 月底
 山姥
 一宿
 糸芳
 卯耕

明治十二年十月十三日御届
 十一月 出版

定價三十五錢

編輯者 椿海潮堂

東京府平民

高木和助

浅州區北元街七番地

出版人 小林喜右衛門

日本橋區新大阪町十番地

